

賛否など態度決定に至った理由・討論

令和4年3月定例会	
議案番号 議案名	議案第92号 松戸市総合計画の策定について
議員名・会派名等	立憲民主党
賛否態度	反対
賛否など態度決定に至った理由や討論	<p>議案第92号松戸市総合計画の策定について、政策実現フォーラム並びに会派立憲民主党の両会派を代表して反対の立場から討論したいと思います。</p> <p>まずこの新たな総合計画ですが、基本計画および総合戦略の役割をもつことで市の方向性がわかりやすくなっていると執行部は認識しているようですが、私達はむしろわかりにくくなっていると考えています。</p> <p>KPIや目標値の設定についても目指そう値、6次実施計画や現行総合計画から継続したもの、それからあらたに設定したものと大きく3つに分かれていると思いますが、例えば、この数値はそれぞれ個別計画やこれまでの市の方針と本当に整合性がとれているのかという懸念が拭えません。</p> <p>今回の計画の特色である民間企業が組織達成の度合いなどを示すKPI（重要業績評価指標）だけをみると、利益を得るために重点的に取組む物と利益にならないから後回しにする企業戦略のように総合計画が何に力を入れているか、あるいは何に力を入れないか？が分かりやすくみえてきます。</p> <p>例えば、市長が一期目の後期基本計画では、一緒に創ろう私たちの明るい未来と謳い、第二章政策展開の方向では、②一人ひとりの人権が尊重される地域社会をつくります。</p> <p>③男女共同参画社会をつくりますとありました。しかし、今回の総合計画では、第3章政策展開の方向では、基本目標6の2に人権や平和が尊重される地域社会の形成と後段になっています。そして、KPIも人権問題についての関心や理解の深まった人の割合を10年間で僅か0.5%増と低い数値です。</p> <p>また、男女共同参画の推進とありますがKPIは、女性就労の決定者も10年後に10人しか増えないとしています。</p>

平和意識の高揚も、平和事業参加者10年後に88人しか増えないとしています。

一方、基本目標1に子育てなど都市ブランドづくり、選ばれるまちづくりを進める松戸駅周辺の文化拠点整備、基本目標3に魅力的なまちづくりとして、新松戸駅東側地区区画整理10年後100%と有るように市が何に取り組みたいかが見えてきます。市民ニーズにあっているか疑問です。

また子育て・教育・文化の課題の中に、市民ワークショップにおいて、図書館の施設改修、蔵書数改善や図書館の魅力向上を希望する声が多数寄せられ、市民ニーズ調査でも、今後特に力を入れて欲しい取り組みとして、図書館機能の充実・強化を求める回答が37%と最多になっていると記載がありますが、人口1人あたりの蔵書数のKPIは2.4冊です。県内平均は3.15冊くらいですし、今から5年以上前に策定された松戸市図書館整備計画においても少なくとも100万冊程度の蔵書が必要だとしてるわけですから、今後8年かけて目指す目標値として低過ぎると思います。

SDGsを推進する社会の環境問題についても、標榜している将来像を目指すにはCO2排出量削減率も目標値としては低いと思います。

また、1番わかりやすく低い目標、指標で言うと、健全化判断比率です。質疑を通して確認しましたが、早期健全化基準を上回っている自治体というのは全国1700以上もの自治体がある中で、たったの1つしかないんです。(実質赤字比率0、連結実質赤字比率0、実質公債比率1、将来負担比率1)

前回の総合計画には財政力指数1.05を目指すとしていたのに、今回は上位2割水準を維持すると記載はあるものの、すぐその下には、全国でたった1つの自治体しか陥っていない様な状況にはならないようにしますとなっているわけです。この落差はいったいなんなんですか？それくらい大きなお金を使う事も見越した計画という事なんですか？

そう言った中で、財政の見通しがとても心配なわけですが、この総合計画の財政の見通しを補足するために各議員には「主要事業における財政の影響額」という資料が配布されていました。そこには「令和11年までの財政見通しは、新拠点ゾーン整備事業・新松戸駅東側地区土地区画整理事業・小中学校長寿命化改修事業などを実施することで負債としての市債残高は、令和2年から同8年の比較で、135億増加する。一方で、資産として基金残高

は令和2年から同8年の比較で、206億増加する。そして、これらの差額が71億円の黒字で改善するから、松戸市の財政状況は悪化しないと」なっていますが、代表質問での関根議員への答弁によって、企業会計を除いた市債残高は277.4億円の増加であり、基金との差額は72.5億円の赤字であることがわかりました。

常磐線快速列車の新松戸駅停車についてもさきの代表質問で約232億円という概算工事費があきらかになりました。費用負担については今後協議を行い、快速停車の実現に向けて推進してまいりますとの答弁もありましたが、こういったことは総合計画では考慮されていません。さらに言うと、この財政の見直しには、新拠点ゾーン整備事業関係費が計上されていて、歳入には現市役所の土地の売却益約35億円も含まれているとの事も確認できました。

しかも、平成31年3月議会で市長が明言した優先したい多額予算を要する3つの大型事業（市役所建て替え、新松戸東側地区土地地区画整理事業、新焼却施設建設）のうち、市長が突如として先送り表明した数百億円かかると言われている新焼却施設建設にかかわる事業費は含まれていませんので、令和11年以降はさらに市債が増加すると思われる。

我々も、大型事業の多くはいずれ市民のためになるものとは考えます。しかし、今は厳しい現実を見つめ、早くやらなくてはいけないものを先に行うよう事業の優先度をつけて行うことが、将来を見据えた責任ある財政運営となるわけで現状の市のやり方を見ていると、こうした責任ある財政運営の姿勢とは残念ながら思えず、あえて情報を制限し、早く議会を通してしまいたいという安易な姿勢にも見えます。

市民の代表であり、行政をしっかりチェックすることが役目の我々としては、こういった状況の中で、このような総合計画を認める事はとても難しいと判断しました。

議会として、こうした市のやり方は認めない、はっきりとノーを突きつけるべきだと皆様に呼びかけまして、議案第92号松戸市総合計画の策定について、政策実現フォーラム並びに会派立憲民主党の両会派を代表しての反対討論とさせていただきます。皆様の満場の御賛同をよろしくお願いいたします。